

平成24年11月12日  
独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構  
九州沖縄農業研究センター

## 平成24年度 農研機構国際シンポジウムのご案内 「イネウンカ類の殺虫剤抵抗性と媒介ウイルス病に関する最新研究」

### ポイント

- ・12月6日（木曜日）、7日（金曜日）の両日、福岡国際会議場において農研機構国際シンポジウムを開催します。
- ・シンポジウムでは、「イネウンカ類の殺虫剤抵抗性と媒介ウイルス病に関する最新研究」をテーマに、適切な病害虫管理に向けた方策を検討します。

### 概要

1. 農研機構九州沖縄農業研究センターは、「イネウンカ類の殺虫剤抵抗性と媒介ウイルス病に関する最新研究」をテーマに、農研機構国際シンポジウムを開催します。
2. シンポジウムでは、ヒメトビウンカの海外飛来の実態解明、イネウンカ類の媒介ウイルス病や殺虫剤抵抗性について議論し、東アジアにおける適切な病害虫の管理に向けた方策を検討します。
3. 当日は是非取材にお越しいただき、誌面等でご紹介いただければ幸いです。

### 記

開催日時：平成24年12月6日（木）9:00～17:10（18:30～意見交換会）  
12月7日（金）9:00～17:00  
開催場所：福岡国際会議場（福岡研福岡市博多区石城町2-1）

※開催内容は、下記のURLでもご覧頂けます。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2012/08/042377.html>

以上

### 問い合わせ先など

広報担当者：農研機構九州沖縄農業研究センター 広報普及室長

松岡 誠 TEL 096-242-7682

FAX 096-242-7543

プレス用 e-mail : [q\\_info@ml.affrc.go.jp](mailto:q_info@ml.affrc.go.jp)

**農研機構国際シンポジウム 2012**  
**「イネウンカ類の殺虫剤抵抗性と媒介ウイルス病に関する最新研究」**  
**開催要領**



**1. 趣旨**

近年国内外で殺虫剤抵抗性を持ったイネウンカ類が飛来し、それらが媒介する新興・再興ウイルス病が発生して管理を難しくしている。そのためイネウンカ類の殺虫剤抵抗性の現状とメカニズム、媒介ウイルス病の知見を整理し、国際協力に向けた検討が必要となっている。シンポジウムでは、ヒメトビウンカの海外飛来の実態解明、イネウンカ類の媒介ウイルス病、殺虫剤抵抗性に関する農研機構の最新の研究成果を、国内の大学等や中国、韓国、ベトナムの最新知見を交えながら紹介し、研究の展開方向を議論するとともに、適切な病害虫管理に向けた方策を検討することを目的とする。

**2. 主催**

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター

**3. 開催日時**

平成 24 年 12 月 6 日 (木) 9:00～17:10 (18:30～意見交換会)  
12 月 7 日 (金) 9:00～17:00

**4. 開催場所**

福岡国際会議場 5 F (国際会議室 501)  
〒812-0032 福岡県福岡市博多区石城町 2-1  
<http://www.marinemesse.or.jp/congress/>  
※JR 博多駅からバスで約 13 分

**5. プログラム**

平成 24 年 12 月 6 日 (木)

**9:00 開会**

農研機構 理事長 挨拶  
農研機構 九州沖縄農業研究センター所長 挨拶  
農研機構 大塚 彰「NARO 国際シンポジウムのねらいと構成」

**9:20 セッション1 ヒメトビウンカの海外飛来および媒介ウイルス病**

中国江蘇省南京植保站 朱 叶芹「中国江蘇省での RSV と RBSDV 発生状況と防除対策」  
韓国農業科学院 G. -S. Lee 「韓国でのヒメトビウンカの海外飛来とイネ縞葉枯病の発生」  
韓国農業科学院 C. -S. Kim 「韓国におけるヒメトビウンカのイネ科雑草での発生実態」  
農研機構 柴 卓也「関東地域におけるヒメトビウンカとイネ縞葉枯病ウイルスの再興」

**13:20**

農研機構 真田幸代「海外飛来によるヒメトビウンカの薬剤抵抗性発達リスク」  
中国江蘇省農業科学院 周 益軍「ヒメトビウンカと RSV の分子相互作用」  
農研機構 大貫正俊「国内外で採集された RSV の遺伝的多様性」  
農研機構 大塚 彰「ヒメトビウンカの海外飛来を予測する方法」  
韓国農業科学院 H. -H. Park 「アジア移動性害虫とウイルス情報システム AMIVS」

**18:30 意見交換会**

平成 24 年 12 月 7 日 (金)

**9:00 セッション2 セジロウンカ、トビイロウンカが媒介するウイルス病**

ベトナム植保研 Dinh Van Thanh 「ベトナム北部での SRBSDV の発生状況と対策」

農研機構 松倉啓一郎 「イネ-セジロウンカ感染環での SRBSDV の定量解析」

中国福建農林大 魏太云 「ウンカ体内での SRBSDV と RRSV の持続的感染経路」

農研機構 酒井淳一 「SRBSDV ウイルス検出手法の開発」

ベトナム南部植物保護センター Ho Van Chien 「ベトナム南部におけるトビイロウンカ媒介ウイルス病の管理方策」

**13:10 セッション3 イネウンカ類の殺虫剤抵抗性発達の現状とメカニズム解明**

農研機構 松村正哉 「アジア地域イネウンカ類の殺虫剤抵抗性の現状」

中国南京農大 刘泽文 「トビイロウンカの殺虫剤抵抗性：メカニズムと管理」

近畿大 松田一彦 「自然界のネオニコチノイド抵抗性に関連するホットスポットの予測」

農業生物資源研 野田博明 「ウンカ類ゲノム研究の殺虫剤抵抗性研究への寄与」

**16:40 総合討論**

**17:00 閉会**

農研機構九州沖縄農業研究センター企画管理部長

**6. 参集範囲**

農林水産省関係部局、農業関係独立行政法人、大学、府県の行政・普及・植物保護・試験研究機関、関連企業、関連団体、生産者、その他企画担当責任者が必要と認める者

**7. 参加費**

無料

**8. 定員**

170 名 (定員になり次第、申し込みを締め切ります)

**9. 参加申し込み**

11 月 9 日 (金) までに次の必要事項を下記事務局宛、Eメールでお申し込みください。

[氏名、所属または職業、意見交換会の参加・不参加の別]

【NARO 国際シンポジウム事務局】 Eメール：narosympo2012@ml.affrc.go.jp

〒861-1192 熊本県合志市須屋 2421

九州沖縄農業研究センター 生産環境研究領域 大塚 彰

電話：096-242-7731

**10. その他**

- ・宿泊：会場周辺にホテルがありますので、各自で早めにご予約願います。
- ・昼食：会場周辺のレストラン等で各自お取り下さい。
- ・意見交換会：12 月 6 日 (木) 18 時 30 分から行います。会費：5,000 円 (当日、会場受付にて申し受けます。なお、キャンセルは 11 月 22 日 (木) までにお願ひ致します。)
- ・個人情報の取り扱い：申し込みによりお預かりする個人情報につきましては、本シンポジウム運営に関する事以外目的には使用致しません。
- ・諸事情によりプログラム内容が一部変更となる場合がございますので、予めご了承ください。

### イネウンカ類

水稻を加害するトビイロウンカ、セジロウンカとヒメトビウンカの3種をいい、小型（体長3～4mm）のセミの仲間です。これらは水稻の篩管液を吸って枯らしたり、ウイルス病を媒介したりします。このうち、ヒメトビウンカのみ国内で越冬可能です。3種とも長距離を移動し、海外から飛来すると考えられています。



(トビイロウンカ)



(セジロウンカ)



(ヒメトビウンカ)

### イネ縞葉枯病

イネ縞葉枯ウイルスの感染により発症する水稻の病気です。イネ縞葉枯ウイルスは、ヒメトビウンカが媒介します。この病気を発症すると穂が出なくなったり、枯れたりすることがあります。小麦や大麦にも感染します。

### イネ南方黒すじ萎縮病

イネ南方黒すじ萎縮病ウイルスの感染により発症する水稻の病気です。このウイルスは、主にセジロウンカが媒介し、2010年に国内で初めて確認されました。感染したイネは、株の萎縮、葉先のねじれ、葉脈の隆起などの特徴的な症状を示します。

### 殺虫剤抵抗性

殺虫剤を繰り返し使用すると、虫に抵抗性が発達してきて、その殺虫剤が効き難くなります。イネウンカ類では、主要な殺虫剤としてイミダクロプリドやフィプロニルなどが1990年代からアジア各国で利用されてきました。そのため近年ウンカにこうした殺虫剤に対して抵抗性が高くなっています。ウンカの種類や場所、時期により使用される殺虫剤が異なることで、異なる抵抗性が発達しています。